

第 18 期 REX プログラム派遣教員にぜひ伝えたいこと

「焦らず慌てず少しずつ」そして「ちょっぴり図々しく」

～前任者から引き継いだ課題・問題点にどう取り組んだかを中心に

2005 年度第 16 期派遣：松山美彦

派遣先：中国・黒竜江省哈尔滨市

現・勤務校：北海道共和高等学校

1 はじめに

(1) 派遣地および勤務校、職務の概況について

- ・派遣地：黒竜江省哈尔滨市(黒竜江省の省都、北海道とは 1986 年に友好都市提携結ぶ)

< 2004 年のデータ >

< 面積 約 5 . 3 1 万 k m² (北海道の約 3/5)、人口 約 970 万人 (北海道の約 9/5) >

- ・勤務校：哈尔滨市朝鮮族第一中学校

哈尔滨市内にある中等部と高等部併設の朝鮮族の学校。全校生徒(約 1200 人)の半数(約 600 人)が日本語を選択。日本語選択生徒は基本的に中学 1 年生から週に 7 コマ(1 コマ 40 分)程度、第一外国語として日本語を学習しており、大学入試も日本語で受験。主に中学 2 年、高校 1 年、2 年の会話の授業を担当した。日本に留学予定生徒の講座や生徒の晩自習の監督を担当することもあり、持ち時数は、週に最大で 11 コマ程度。単独校勤務(前任者は最大で 3 校の複数校勤務)。

2 前任者から引き継いだ課題・問題点への取り組み

前任者から引き継いだ課題・問題点	課題・問題点への取り組みの概要
日本の高校生との交流の不足。生徒が希望している文通相手が日本に少ない等。	・ REX 派遣帰国教員と連携をし、大阪や北海道の高校生との文通やメールの交換をした。・ 学習者の使用可能言語(中国語、韓国・朝鮮語)を学習している日本の高校生との交流(文通、メール)を企画。・ 哈尔滨市に在住する他校の日本人留学生(高校生)に来校してもらい日本の高校生活について紹介してもらう。・ 「新世紀国際交流プロジェクト」(文部科学省補助事業)受け入れの運営と派遣に関する面接業務および事前指導担当により交流の機会を増やす。・ 国際文化フォーラム「 FOCUS ON JAPAN 」に応募するなどして日本の高校生について考える。

前任者から引き継いだ課題・問題点	課題・問題点への取り組みの概要
<p>REX プログラムの認知度が低く、日本語教育普及の面で、現地の諸関係機関と連携し十分な貢献ができなかった。</p>	<p>・地域の友好提携都市に訪日したことのある方対象の日本語サロン開催。・北海道/黒竜江省友好提携 20 周年事業に積極的にかかわる。(日本語弁論大会と訪中団の北海道の高校生との交流事業の企画と運営のお手伝い、北海道物産展ボランティア等)・国際交流基金北京事務所と連携を取り、省レベルの日本語教師研修会などに参加。・国際文化フォーラムの省教育庁訪問に同行させていただき近況報告。・「中日韓三カ国地方政府交流シンポジウム」など哈尔滨市で開催された国際会議に積極的に参加した。</p>
<p>作文指導、スピーチコンテストなどの評価の観点が違う。具体的には内容よりも表現重視。生徒の経験に基づいた生き生きした作文より難しい表現をひねりまわしたようなものが高評価につながる傾向があり、評価や審査に加わる際には注意が必要。</p>	<p>評価や審査基準を検討する会議に参加させてもらい、日本の機関が関係する大会については、積極的に意見を言った。</p> <p>単独校勤務となったこともあり、専用の机とロッカーを用意してもらえた。</p> <p>最高 6 4 人のクラスを受け持った。1 クラスの人数の定員については口出しできることではないが、日本語の授業をする際の使用教室にはこだわり、パソコンや視聴覚機材が利用できるよう要望した。特に日事情の紹介などでは多人数の生徒の興味・関心を引くように工夫した。</p>
<p>各学校とも職員室に座席がなく、時間割変更が多いが連絡がこないことがある。</p>	<p>雰囲気が違うのは当然と受けとめ、生徒の興味・関心に応じて例文や話題を提供した。</p>
<p>5 5 人のクラスがあるなど、1 クラスの人数が多い学校もある。</p>	<p>前任者のように高校 3 年生のクラスを常時担当する学校が無くなったので、この問題は生じなかった。逆に高校 2 年生の授業の中で、大学入試のヒアリング試験の対策をしてほしいと要望を受けたことがあり、何度か実施。</p>
<p>成績別クラス編成のため、クラスにより雰囲気が違う。</p>	
<p>大学入試直前は会話の授業が削られることがある。</p>	<p>過去、北海道の高校に派遣されたことのある ACT(中国語指導助手 8 人)が集まる会を開き情報収集。第一外国語の日本語選択者減の傾向は顕著だったが、第 2 外国語として日本語を学ぶ漢族の高校が増える可能性があるという情報を得たので、そのような計画がある学校には省外事処から、REX 派遣教員を将来的に活用することを検討いただけるよう連絡をしてもらった。</p>
<p>漢族の学校の日本語選択者の激減。</p>	

3 実践の中で心がけたこと

(1) 派遣までのあらゆる経験と現地でのネットワークをいかす

）特に役立った経験

- ・ 哈尔滨市内にある大学や学院で日本語教師をした経験（1990年3月～1992年8月）
- ・ 日本の高校で中国語の授業を担当した経験（1993年4月～ ）
- ・ 東外大での REX 事前研修

）文部科学省、北海道教育委員会以外に、特に役立ったネットワークおよびご協力いただいた機関など

- ・ 16期 REX のネットワーク（頻繁にメール連絡をした）と HP
- ・ 東京外大留学生日本語教育センター（月例報告を送信、視察にも来ていただいた）
- ・ REX-NET（2006 シンポジウムでビデオレターの発表をさせていただいた）
- ・（財）国際文化フォーラム（日本語教育、国際教育、中国語教育の各方面）
- ・（財）AFS（「新世紀国際交流プロジェクト」（文部科学省補助事業）でお世話になった）
- ・ 国際交流基金北京事務所（「北海道/黒竜江省友好提携 20 周年記念日本語弁論大会」の審査委員長を依頼。中国における日本語教育の情報提供を受けたり、省レベルで開催される日本語教育研究会などの情報交換をした。）
- ・ 北海道庁、新潟県庁、山形県庁から哈尔滨市に派遣されていた国際交流員との交流
- ・ 哈尔滨市日本人教師会（私以外は大学、専門学校の教員であったが、日本語教育に関する各種の情報交換をした。）
- ・ 哈尔滨市日本人商工会（日本語ができる現地の方が活躍できる場の情報交換など）

(2) 「発信」することへのこだわり

- ・ ブログの公開（<http://www.doblog.com/weblog/myblog/53065>）

基本的に毎日更新するようにした。写真も毎日更新。予想外に反響（日本語教師、中国語を学ぶ高校生の親など）があり、総アクセス数は5万件を超えた（2007年3月31日現在）。心のゆとりなどを自分自身チェックするのにも役立った。

- ・ 高橋はるみ北海道知事のHP（北海道庁）より知事にメールを送信（2005年10月）
「北海道/黒竜江省友好提携20周年事業」において高校生の交流事業を実施し、可能であれば派遣先の勤務校を訪問してほしいという内容。知事の勤務校の訪問はかなわなかったが、20周年事業の祝賀会で知事と勤務校の教職員、高校生が交流する機会がもてた。
- ・ 北海道の「北海道国際化推進指針（仮称）素案」に対する意見の提出（2006年3月）
投稿した意見が道庁のHPに掲載された。意見の概要は「国際理解教育や外国語教

育の推進」における英語以外の外国語教育の推進、北海道が黒龍江省より招いている中国語指導教員の招聘事業の継続である。

- ・北海道新聞 投書欄への投稿（2006年10月）

国際交流における青少年交流の大切さを「北海道・黒龍江省友好提携20周年事業」（2006年7月）における青少年交流事業を手伝った経験を踏まえ書いた。

- ・地元TV局（黒龍江省電視台）番組出演「世界の料理（日本）」（2006年4月）

世界の料理を紹介する企画の日本料理を紹介する時間に出演した。撮影時には簡単な日本語と中国語で日本料理について説明したが、英語で放送される番組であったので、放送時には私の音声は使われなかった。

- ・北海道庁国際課のHPの国際課中国派遣職員による「ハルビンレポート」に記事を掲載（<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tsk/teikei/harbin7.htm>）してもらう（2007年2月）

「ハルビンの教育事情」の中の「語学教育」の記事の中に REX 派遣について記載。

4 おわりに

前任者から引き継いだ課題・問題点の解決に向け取り組むことによって、REX事業の大きな目的の一つである「日本語・日本文化の普及」ということに関しては、勤務校での授業、活動の他にも赴任地で築いたネットワークを最大限いかし、自分なりに積極的に取り組んだつもりだ。その結果、様々な活動をとおして、勤務校をはじめたくさんの中国人と交流する機会を得た。また、中国と係わる日本人や日本の高校生ともいろいろな形で交流ができた。派遣教員として、これらの交流の中で得たものは一生の財産となろう。ただ、これらの貴重な経験を後任の派遣者に直接、引き継ぐことのできないことになってしまった。費用負担の問題などで次年度の派遣は中止になったのである。非常に残念でならない。勤務校は、日本人教師の有用性についての認識があり、平成13年度より本プログラムの派遣日本語教師を受け入れていた。そして、次年度も継続を望んでいたため、私の後任が北海道より派遣されなくなってしまったことは、とても心苦しいことでもあった。しかし、将来的には派遣中止となってしまった大きな原因の一つである費用負担の問題などの状況が変われば、派遣の再開もあり得ると聞いている。

私のささやかな経験が REX 教員としてこれから旅立つ18期の皆さんにとって少しでもお役に立ち、赴任地で実践をする際の何かの参考になれば幸いである。そして、皆さんのご活躍により、今後も REX 事業が一層発展し、各地で REX 事業の新規開始や再開の動きが芽生えていくことを願い、報告を終えたい。

ありがとうございました。

以 上